

ICカードで 暗号資産管理



モリックス

指紋認証、クレカに應用も

モリックス（東京都千代田区、久保田守彦社長、03・5537・8060）は、クラウドサーバーと連動して暗号資産（仮想通貨）を管理できる指紋認証機能付きICカード「モリックス・ウォレット・カード（MWC）」を開発した。独自開発の指紋センサーと認証アルゴリズムをICカードに実装した指紋認証カードで、6月から暗号資産の交換業者や所有者を対象に、代理店を通じて1枚2万円程度で販売する。年間の販売目標は50万枚。

右上に電子ペーパーディスプレイ、左下に指紋センサーを配置したICカード

MWCは指をICカード上の指紋センサーに置くと、クラウドに登録したデータを通じて本人確認する。カード利用時に登録した指紋情報は、登録後に改ざんできない仕組みを採用。指紋データは暗号化してカード内に記録し、サーバー上では

指紋情報をやりとりしない。厚さは約2ミリの薄型バッテリーを内蔵し、USBを使用した充電で2週間程度利用可能。E-Ink方式の電子ペーパーを使用した2次元コード「QRコード」を利用し暗号資産を送ったり受け取ったりできる。ディスプレイには資産保有状況などの情報も表示可能。パソコンやスマートフォン、タブレット端末などにアプリケーション（応用ソフト）をダウンロードすることで、暗号資産を送金したり受け取ったりできる。

ビットコインやイーサリアムなど7種類の仮想通貨で採用される見込みで、今後、ERC20規格トークンにも対応予定。久保田社長は「なりすましなどを除外して、安全性を高められる」としている。同社はクレジットカードなど金融分野向けの指紋認証センサー付き決済カードとして、バッテリーを搭載しない指紋認証機能付きICカードも開発中。年内に販売開始予定で、自動車分野のスマートキーやエンターテインメント分野の会員登録などでも用途を開拓する。